

## 社会福祉専門職倫理から見た性産業従事

○ 大阪府立大学大学院 武子 愛 (会員番号 009394)

キーワード3つ：婦人保護、性産業、社会福祉専門職の倫理

### 1. 研究目的

婦人保護施設はDVあるいは家庭内暴力被害の支援が67.5%（「婦人保護事業等における支援実態等に関する調査研究」ワーキングチーム 2018）と比重の多くを占めるが、売買春問題を含む性産業従事者への支援は婦人保護施設の根幹をなすものとして現在も強く意識されていると推測される。しかし、婦人保護施設の現場では性産業をどう捉えるかで戸惑いがある。なぜなら、性産業に「戻っていく」（ポルノ被害と性暴力を考える会 2010：136）利用者もいるからである。自己決定を重要な概念とする社会福祉専門職には、性産業に戻りたい利用者の「未然防止」と、自己決定の尊重という社会福祉専門職の倫理の間にジレンマが生じる。そして「未然防止」をするためには、性産業従事による不利益を利用者に説明しなければならない。本研究では女性福祉の支援に資する目的で、社会福祉専門職が性産業従事への自己決定をどう捉えるのか、またその不利益は何かを検討する。

### 2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。社会学など他領域で行われた現役あるいは性風俗従事経験者への調査研究から、社会福祉専門職が性産業従事を選ぶ自己決定をどう捉えるか、性産業従事による不利益とは何かを検討する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会研究倫理規程に基づいて行った。

### 4. 研究結果

先行研究で強調されているのは、性暴力があることと、その一方で、性風俗従事を肯定的に捉えている人もいることである。例えば要・水島(2005)は、今までお店で嫌なことがあった人が半数以上いるのと同時に仕事に誇りを持っている人が6割以上いることを報告している。また青山(2006)は、性奴隷のような形で従事する人がいる一方で、仕事の良い面を語る人もいたとする。田中(2016)は、性風俗は肉体労働なので身体的疲労などが出やすいとする一方、人間として扱ってくれるなどの「性風俗の「魅力」を語る性風俗従事者も多い」（田中2016:169）とする。熊田(2017)は、この仕事は誰でもできる仕事ではなく、性産業に従事する女性は日々並々ならぬ努力を重ねる仕事人であることを指摘している。

一方、この仕事に罪悪感があるものも少なくなく（田村1986、要・水島2005）、要・水島(2005)によるとその理由は「内緒にしているから」（要・水島2005:48）が8割以上であ

った。そしてこの分野の複数の調査研究に共通しているのは、隠さなければいけない仕事であるということ（要・水島2005、小澤2014、田中2016、熊田2017）である。それは性風俗従事者がその社会の価値観として「あるべき女性像から逸脱すること」（青山2006:82）によって将来の結婚や転職に差し支えがある（田村1986、田中2016）こともあるだろうし、性風俗従事者が「スティグマの内面化」（田中2016:223）をしていることもあるだろう。また、周囲から「低級な労働」と認識」（田中2016:207）されているからでもあるだろう。根底にあるのは性産業従事へのスティグマであることを指摘できる。

ポルノ被害と性暴力を考える会(2010)では性産業に従事することによって受ける深刻な暴力や、逃げ出すことすらできなかつた状況が報告されていた。しかし、上記の先行研究からは性産業従事は性奴隷そのものではなく、得るものもあるということがわかる。その一方で、性産業従事は、性産業に対するスティグマから隠さなければならない仕事であるということが明らかにされたと言える。

## 5. 考察

社会福祉専門職は、たとえ得るものが大きいとしても、利用者が隠さなければならない仕事を選ぶとき、それをどのように捉えたらよいか。誇りを持ってその仕事を選ぶというならば隠さなくてよいはずであるし、実際に隠さないという利用者ならば自己決定として尊重することもできるだろう。しかし、性産業へのスティグマという外的要因が原因だったにしろ、利用者が隠さなければならない仕事として認識しながら性産業従事を選ぶ場合、社会福祉専門職がそれを職業選択の自己決定として尊重することは難しい。また、隠すという行為自体はつじつまを合わせるなど精神的負担がある。これは性産業従事における利用者の不利益と言える。性産業従事へのスティグマがなくなるまでは、福祉専門職は性産業従事を職業選択の自己決定として積極的に支援することは難しいと考えられる。

### 参考文献

青山薫(2006)「セックスワーカー」と「性奴隷」のはざまに暮らす、普通の女たち—グローバル性産業の中のタイ女性の場合—『女性学』13、76-93。

要友紀子・水島希(2005)『風俗嬢意識調査—126人の職業意識—』ポット出版。

熊田陽子(2017)『性風俗世界を生きる「おんなのこ」のエスノグラフィ』明石書店。

小澤千咲(2014)「性産業従事者における心理的脆弱性とその形成プロセス」『心理臨床学研究』32(3)、381-391。

田村雅幸(1986)「売春防止法制定30年後の売春行為者の実態—下—」『警察学論集』39(6)、85-112。

田中麻子(2016)『不可視の性暴力—性風俗従事者と被害の序列—』大月書店。

「婦人保護事業等における支援実態等に関する調査研究」ワーキングチーム(2018)「婦人保護事業等における支援実態等に関する調査研究 婦人保護施設における性暴力を受けた被害者に対する支援プログラムに関する調査研究報告書」<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000340184.pdf>

ポルノ被害と性暴力を考える会(2010)『証言・現代の性暴力とポルノ被害—研究と福祉の現場から—』東京都社会福祉協議会。